

自操安全運転プログラムの自動車教習所への普及

# 教育最前線

連載 36

## 青森県内にある自動車教習所の教習指導員を対象に実技研修会を実施

前号(6・7月号)で紹介した通り、運転復帰をめざす障がいをお持ちの方が自操安全運転プログラム(以下、自操プログラム)を近隣地域で受講できるように、ホンダは連携している自動車教習所での展開を始めた。そして、青森県では4校の自動車教習所(弘前モータータースクール、青森モータータースクール、八戸モータータースクール、浪岡モータータースクール)を運営する(株)ムジコ・クリエイティブ(本社:青森県弘前市)が導入を決定。受講者の受け入れに向け、同社とホンダは4校の教習指導員を対象とした自操プログラムの研修会を7月14日に弘前モータータースクールで実施した。

### 運転に及ぼす障がいの影響を確認

(株)ムジコ・クリエイティブ交通教育研究部・執行役員部長の名古屋武一さんは「自操プログラムによる実車でのトレーニングを通じて、自動車教習所として少しでも運転復帰をめざす方のお役に立ちたいと考え、県内4校で受講できる体制づくりを進めているところです。プログラムを実施する私たちが、その目的や内容を正しく理解しておくため、研修会を開催しました」と話す。

講師を務める鈴木サーキット交通教育センターの中原大輔インストラクターは同センターでの事例を紹介。「高次脳機能障がいは、身体に障がいが出るケースもありますが、認知・判断といった目に見えないケースもあります。そうした障がいは、受講者一人ひとりで異なります。プログラムの実施前に、受講者の障がいの状況について作業療法士の方などから

### 自操安全運転プログラムとは?

Hondaが開発した福祉関連安全運転教育プログラムの1つであり、リハビリテーションの方が運転を再開する際の評価や訓練をサポートすることを目的としている。実車による体験を重ねることで、運転基礎感覚(方向・速度・車両・位置・距離・直進)と運転基本操作(走る・曲がる・止まる)を確認できるのが特徴。全国7カ所にあるHondaの交通教育センターで受講することができる。



聞いておくことが重要です。その障がいがある程度運転に影響するかを確認する必要があります。それをふまえて、受講者が運転中は皆さんが指示の内容や回数、タイミングを工夫してください。また、家族や作業療法士の方に後部座席に同乗していただいて、受講者のトレーニングの様子を見てもらいましょう」と、プログラムを運用する上でのポイントを説明した。

### 教習指導員自らがプログラムを体験

また、研修会に参加した教習指導員の方々からは「私自身が今回の研修を受けるにあたって不安を感じていました。障がいをお持ちの方は、私以上の不安をかかえた状態で教習所にいらっしゃるはずですから、そうした不安を少しでも和らげられる対応を教習所全体で考えたいと思います」「初心運転者教育のように明確な基準が存在しないので、評価する私たちの責任は重大だと感じました」「受講者の方がいらっしゃった時に、仕草や会話



研修会には教習指導員等10名が参加。(前列左から)工藤一治さん、名古屋武一さん、八木橋君子さん(後列左から)小田桐幸司さん、岩崎富和さん、横岡清幸さん、宮川輝視さん、棟方稔さん、石田薫さん、奈良英信さん

### 県内の医療機関と連携し、普及拡大をめざす

「このプログラムは運転復帰への不安を解決するための機会・場であること、一人ひとりに合った安全運転スキルを持ち帰っていただくことを念頭に、受講者がどうすればできるかを考えて取り組んでください」と、中原インストラクターが研修会を締めくくった。



実技の1つハンドル操作を教習指導員が体験。ジグザグに配置されたパイロンの間を5km/hを維持しながら走行する。左手でブレーキとアクセルを操作している



実技を始める前に、Hondaの交通教育センターで自操プログラムを実施した事例を紹介

からその方の状態を汲み取って、それをもとに指導内容を組み立てていく、そうしたスキルが私たちに求められているのだと思います」「青森県は公共交通機関が充実していない地域が多いので、運転の可否は生活していく上でとても重要なことです。自操プログラムによって、一人でも多くの方の運転復帰をお手伝いしたい」という声がかれた。

「運転復帰を希望する多くの方に利用していただくためには医療機関との連携が欠かせません」と、名古屋さんは今後、県内の病院やリハビリ施設などに自操プログラムの導入をPRしていくという。

高次脳機能障がいなどで運転を中断した方が再び運転を希望するというニーズは全国各地にあり、これにこたえていくためには自動車教習所の協力が必要である。自動車教習所が自操プログラムを実施できるように、ホンダは今回のような研修会の開催などを通じサポートしていく考えだ。



リハビリテーション向け「運転能力評価サポートソフト」の体験。運転に対する評価・訓練をサポートするソフトで、付属のパダルやハンドルを利用し、反応の速さや正確さ、動作や集中力、判断力を測定できる

自操プログラムにおける車庫入れのポイントについて説明